



Title	デザイン理論 1号 学会報告/奥付
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 1962, 1, p. 84-89
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52415
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

学会報告

経過報告

34年9月12日(土) 楽友会館に於て発起人会開催。創立総会準備を世話人に委託す。

16日(水) 準備会

10月11日(日) 準備会

27日(火) 準備会

11月2日(月) 準備会

6日(金) 準備会

7日(土) 創立総会並に研究発表・記念講演を成安女子短期大学講堂に於て開催。

二百名に近い参会者を迎えて盛会裡に終了後、京極美松に於て懇親会を開催し出席者68名歓を尽す。

研究発表

1) 「デザインの分析と統合」 京阪電鉄 KK企画室 中 西 徹氏

2) 「被服の表現について」 帝塚山女子大 村 上 憲 司氏

3) 「衣裳と容貌の変遷について」 京都工織大 福永俊吉氏

4) 「デザインにおける不易と流行」 京都美大 向井正也氏

5) 「カラー・デザインに関する一考察」 奈良女子大 山崎勝弘氏

記念講演

「デザインと企業」 我妻栄氏

「図案の道あれこれ」 霜鳥之彦氏

11日(水) 幹事会

28日(木) デザイン学会京都大会に会員中の有志協力す。

12月12日(土) 京都大学文学部第8教室に於て第1回研究例会を開催し、そのあと懇談会にうつり8時散会す(出席者120名)

研究発表

「ヨーロッパ旅行談」 京都工織大 大倉三郎氏

「デザイン指導の基礎的諸問題」 京都美大 長崎盛輝氏

35年1月30日(土) 幹事会

2月10日 会報 第1号発行

2月20日(土) 第2回研究例会を大阪市立大学家政学部講義室に於て開催。つづいて

懇談会活潑なディスカッションあり、有意義に終る。(出席者90名)

研究発表

「企業内に於けるデザイン業務」

阪急電鉄 田中照三氏

「現代美術思想の一面と工芸」

京都工織大 河本敦夫氏

35年4月4日(月) 幹事会

11日(月) 役員会

27日 会報 第2号発行

5月7日(土) 総会並びに第3回研究例会を京都工芸織維大学工芸学部第1教室に於て開催。

研究発表

「歐米のインテリアルデザイン見て歩るき」 KK高島屋 植口治氏

6月3日(金) 幹事会

7月2日(土) 第4回研究例会を京都学芸大学第1講義室に於て開催。

研究発表

「デザイン教育の諸問題」 兵庫工業高校 南原七郎氏

「世界デザイン会議について」 布施工芸指導所 坪井恭平氏

7月20日 会報 第3号発行

9月20日(火) 会員名簿発刊す

10月8日(土) 役員会

18日(火) 役員会

11月11日(金) 役員会

11月17日 会報 第4号発行

12月2日(金) 第2回研究大会(第1日)を大阪市立美術館講堂に於て開催。

研究発表

「ルネッサンスの一建築家のイメージ」 京都工織大 相川浩氏

「アート・ディレクターについて」 大阪淀高校 北根肇氏

「被服造形学の課題について」 大阪市大 中嶋朝子氏

「すきや建築における床面坐、椅子坐の一考察」 成安女子短大 宇都宮誠太郎氏

ル・コルビュジエ展見学

12月3日(土) 第2回研究大会(第2日)を大手前会館に於て開催。

研究発表

「陶磁工芸のデザインと素材との関係」 京都美大 小山喜平氏

「Human Engineering (Ergonomics)について」 京都工織大 中村雄二郎氏

「古代中国における意匠(造型)成立の過程について」

大阪市大 高田克己氏

「イラストレーションについて」 日宣美早川良雄氏

「<コミュニケーション>伝達のための新しい道具としての言語」

大阪工芸高校 三木 康生氏

デザインハウス見学

12月20日 会報 第5号発行

36年2月18日(土) 第5回研究例会を神戸六甲荘に於て開催

研究発表

「デザインの基礎理論に関する一考察」GRAVES のデザイン理論を中心として

京都学大 伊東一信氏

「マス・メディア機構内のデザインに関する一考察」

産経新聞社 小川義人氏

36年5月27日(土) 第6回研究例会を京都美術大学に於て開催

研究発表

「デザインの意味」

京都美大 元井能氏

研究例会終了後 役員会

36年7月8日(土) 第7回研究例会を成安女子短期大学に於て開催

研究発表

「デザインポリシーの契機とその理念」

京阪電鉄KK 中西徹氏

「形態とデザイン」

成安女子短大 安藤博氏

研究例会終了後 役員会

36年9月30日(土) 第8回研究例会を浪速短期大学に於て開催

研究発表

「商品市場とデザインの関係」

成安女子短大 吉村午郎氏

報告

「ヨーロッパ諸都市のウインドディスプレイ雰感」

京都美大 長崎盛輝氏

36年10月17日(火) 役員会

11月6日(月) 幹事会

11月17日(金) 第3回研究大会(第1日)並びに第3回総会を京都大学楽友会館に於て開催

研究発表

「女性のデザイン感覚についての考察」

京都美大 城貞男氏

「デザインとフォルム」

日吉ヶ丘高校 武田恒夫氏

「デザイン行為の規範について」

京都市工芸指導所 片山行雄氏

「歐州見学」

全日本染織图案家連盟 田中吉之介氏

シンポジウム「グッドデザインとはなにか」司会 京都大学 井島勉氏

11月18日(土) 第3回研究大会(第2日)を京都大学楽友会館に於て開催

研究発表

「新しいオフィスビルのインテリヤの実例」

日建設計工務KK 岡村 実氏

「巴文様の一考察」

大阪市大 辻合 喜代太郎氏

「新聞紙面構成 (PRINTING METHOD) に対する提案」

京都学大 重成 基氏

研究発表終了後 役員会

象彦見学

36年12月9日(土) 泉屋博古館(住友銅器)見学

37年2月7日(水) フランス美術展特別鑑賞会

37年2月12日(月) 会報第6号第7号発行

37年2月17日(土) 第9回研究例会を京都美術大学に於て開催

研究発表

「MOULD成型についてのデザイン的研究」 京都工織大 野口 茂氏

「東南アジアを旅して」 河合玲デザイン研究所 河合 玲氏

研究例会終了後 役員会

37年2月26日(月) 会誌編集委員会

37年4月21日(土) 第10回研究例会を兵庫県社会事業会館に於て開催

研究発表

「商品の色彩計画について」 鐘紡 KK 佐野正男氏

「手工艺について」 陶芸家 佐々木 猛氏

37年6月8日(金) 幹事会

渡辺賢一氏

10月26日永眠されました。氏は大阪市立工芸高等学校校長として、デザイン教育に永年たづさわってこられ、また本会の発会以来、委員として色々と御尽力を賜わりました。ここにご報告旁々学会として、つつしんでご冥福を祈る次第であります。

関 西 意 匠 学 会 会 則

第 1 章 総 則

第1条 本会を関西意匠学会と称する。

第2条 本会の事務所を当分の間、京都学芸大学構成研究室に置く。

第 2 章 目的及び事業

第3条 本会は意匠に関する会員相互の研究により、意匠学の進展を図ることを、目的とする。

第4条 本会は次の事業を行うことができる。

1. 各種研究会の開催。
2. 機関誌その他の編集又は発行。
3. 意匠に関する研究者共同の便宜、利益を図るための諸活動、及び諸事業。
4. その他本会の目的達成に必要な事業。

第 3 章 会 員

第5条 本会の会員は正会員、法人会員、賛助会員とする。

1. 正会員 意匠各部門の研究又は従事者であり、会費を納入する者。
2. 法人会員 法人又は団体の名において、本会の事業に参加する者。当該法人に所属する職員五名以内が、本会主催の諸集会、各種研究会に出席することができる。
3. 賛助会員 本会の事業に賛同する後援者。

第 4 章 役 員

第6条 本会に左の役員を置く。

会長 一 名

委員若干名

幹事若干名

第7条 会長は委員の推薦による。

第8条 委員及び幹事は正会員中より選出し、委員の互選により委員長一名を定める。

第9条 委員会は本会運営の方策を協議し、幹事は運営の事務を担当する。

第10条 役員の任期は二年とする。但し、再選を妨げない。

第11条 本会に顧問を置くことができる。顧問は委員会が推選し、会長これを委嘱する。

第5章 会 議

第12条 会議は総会及び委員会とする。

総会は年一回これを聞く。別に委員会が必要と認めた場合、又は、正会員総数の三分の二以上の要求ある時これを聞く。

第13条 総会の決議により会則を変更することができる。

第6章 会 計

第14条 本会の経費は会費及び補助金その他を以ってこれに当てる。

第15条 本会の会計は四月一日より始まり翌年三月三十一日に終る。

第16条 会費は総会において決定する。

正会員 年額 800円

法人会員 一口 3,000円

賛助会員 委員会がこれを定める。

(一口 年 10,000円)

— 編 集 後 記 —

○編集には主として、元井、向井、城、榎原、中西が当った。広告の取材には、野口、北根、林諸氏の応援を求めた。

○記事依頼をしたのが、晩春、発行が晩秋、いかにも現代的テンポとはいがたい。寄稿者も多忙なれば、編集者も多忙、かかる意味では、いかにもデザイン多忙の現代的ともいえるか?

○おそらく重厚な、内容豊かな論文研究が得られたことを嬉しく思っている。読みづらいことだろうが、一年に二、三度はこれ位のことは辛棒願って、隅々まで読破していただきたい。

○デザインニュース・グラビア・文献目論等を今後更に充実させて行きたい。

○何度も編集會議に、静かな席を提供下さった。美術大学芸術学研究室の諸氏に厚く御礼申します。

(中西記)

デザイン理論 第1号

1962年11月11日 発 行

定 價 180 円

編 集 発 行

関西意匠学会会誌編集委員会

元 井 能

京都市東山区今熊野京都市立美
術大学芸術学研究室内

印 刷

明文舎印刷株式会社